

献血者におけるグリコアルブミン（G A）測定導入の意義と成績

石川県赤十字血液センター

三輪 梅夫

平成 21（2009）年 3 月から、すべての献血者にグリコアルブミン（G A）測定検査を導入した。これまで、安全な血液確保のため、献血者に対し、さまざまな感染症のチェックを実施し、その徹底的な排除努力は今日大きな成果をあげている。併せて、献血者自身の健康管理の視点から、肝機能や脂質検査のデータをフィードバックすることにより、献血者の健康環境を整える配慮も続けられてきた。

メタボリック症候群は、特定健診制度の新設により、国をあげての予防対策が講じられているが、その中心的病態が糖尿病である。糖尿病の診断、管理指標（マーカー）として、グリコヘモグロビン（H b A 1 c）の有用性は周知の事実であり、このほどわが国で国際標準化の手続きが進行している。G A は H b A 1 c に比し、認識度、浸透度の点で後れをとっていることは否めないが、妊婦や腎不全状態では H b A 1 c よりも明らかに優れた実績が示されている。

そこで、1）G A と H b A 1 c との相関性についての検討、2）日本糖尿病学会、日本糖尿病・妊娠学会、日本糖尿病財団などとの連携、を先ず積極的に行い、次いで 3）献血者での G A 分布の実態把握と分析に取り組むこととした。1）に関しては、献血者 4, 000 余例の同一検体につき、東京都センターで検査を行い、一定の相関性が実証された。2）に関しては、糖尿病の臨床・研究に携わる多くの指導スタッフに G A 導入の理解を求めたほか、「糖尿病治療ガイド」の改訂に際し、G A の項の充実を要望した。

今回、3）に関しての結果の要約を中心に紹介する。2009 年 4 月の一カ月について、G A の異常カットオフ値を 16.5% の線で切ると、全体で 2% 余の糖尿病、もしくはその予備群の存在が示唆された。この頻度は加齢とともに増加したが、肥満度との関連もみられた。一方で、この同じ基準で B M I（肥満指数）が 25 未満の非肥満者の占める比率が 60% に達することも注目された。さらに年間を通しての成績も集計し、合わせて献血者の実態として報告する。

G A 測定検査導入が糖尿病、メタボリック症候群の予防・管理における優れたアウトカムにつながることを祈念したい。